2018年度司書課程主催行事等報告

今年度の大きなできごととして、アーカイブズについての公開シンポジウムの開催と VR 図書館の公開、加えて立教大学図書館との連携強化がある。以下に報告したい。

1　公開シンポジウム「アーカイブズの最新トレンド 2018」開催

2018 年 11 月 12 日（月）18:20～20:20 に、池袋キャンパスにおいて、司書課程主催で公開シンポジウム「アーカイブズの最新トレンド 2018」を開催し、平日の夜間にも関わらず、学内外から 40 名ほどが集まった。このイベントのために、2017 年度中に、学校・社会教育講座内で理解と支援を得て、予算を確保しており、次の 2 名の講師をアメリカ合衆国からお招きして実現することができた。Kären M. Mason 氏（メアリー・ルイーズ・スミス・女性史アーカイブズのキュレーター）、Cassie Findlay 氏（ギャップ株式会社のシニアアナリスト）である。大学附属アーカイブズと企業アーカイブズのリーダーとして著名な講師たちから、最先端の優れたアーカイブズ実践を報告していただき、国際的なトレンドを検討することができた。IT のイノベーションが続き、世界的に見るとアーカイブズの実践は大きく変化してきているが、日本ではアーカイブズの意義がようやく理解されつつあるという状況にあって、世界のトレンドと日本の課題の把握が喫緊の課題だと考えた。ご講演の内容は本誌に掲載したので、ここでは両氏について簡単にご紹介したい。

Mason 氏は、アイオワ大学図書館内の女性史アーカイブズにおいて、1992 年の創設以来、キュレーターを務める方である。同アーカイブズは、元は同図書館の特別コレクションとして収集されてきた、女性運動や政治における女性に関する資料を基礎として開設され、開設後には、アイオワの女性に関する資料が網羅的に収集されてきた。Mason 氏は、過去にアーカイブズに十分に収められてこなかった類の女性に関わる歴史資料の収集に積極的に取り組んでいる。コレクションには、女性のスポーツ、女性芸術家、女性の公民権運動などのほか、アイオワのアフリカ系女性、辺境地の女性、ラテン系女性についての資料が含まれる。ブリンマー大学卒、ミネソタ大学で歴史学修士号取得、ミシガン大学でアメリカ史で Ph.D. 取得。アイオワ大学歴史学部助教授（非常勤）も務める。

Findlay 氏は、ギャップ社のシニアアーキビスト、そして現職のシニアアナリストとして、同社のアーカイブズ（物理的なアーカイブズとサイバースペースのアーカイブズの両方）のマネジメント業務等にあたっておられる。1990 年代末から、オーストラリア・シドニーにあるニューサウスウェールズ州政府のアーカイブズで政府情報のアーカイブズの電子化プロジェクトでマネージャーを務めた。アーカイブズのコンサルティング業、ケント州立大学図書館情報学研究科の兼任講師を経験。同氏のキャリアは一貫して、電子記録の管理・保存に関わるものであり、一切の著作権、特許などからフリーな “オープンデータ” のプロジェクトやジャーナリズム関係のプロジェクトにも参加、貢献している。近年はブロックチェーン技術の活用に関わって刺激的な情報発信を行っている。シドニー大学卒、またニューサウスウェールズ大学にて情報マネジメント学修士号を取得している。

公開シンポジウムに先立って、Findley 氏からは、学内者向けに、11 月 8 日（木）の「図書館情報資源概論」（担当・中村）で、「アーカイブズと記録管理：オーストラリアの視点」と題する講演を実施していただいた。ここで、図書館とアーカイブズの相違からはじまって、アーカイブズ分野のトレンドの概説までをレクチャしていただくことができ、特に学生たち

にとっては極めてよい導入になったと思われる。この記録も、本誌に掲載している。また、「図書館サービス特論」(担当・ハモンド特任教授;使用言語は英語)では、11 月 16 日(金)に、Mason 氏から「Archives in the Community: Implications for Archivists」と題するお話をいただいた。少人数クラスであり、英語で活発に質疑応答が行われた。

2　司書課程教材として立教大学図書館 VR を作成

これも、学校・社会教育講座の予算を使いたいと昨年度中に申請して許可が下りていて実現したものである。2018 年度に入ってすぐ、香港の Sugar Coat VFX Design 社と契約し、図書館の未来像を考えるための教材として、本学図書館(池袋図書館・新座図書館)を VR にして公開するプロジェクトに着手した。5 月に数日をかけて撮影を行い、7 月に「図書館概論」(担当・中村)の 2 クラスで学生たちに試験的に体験してもらい、教材として活用し、さまざまな声を聞いたうえで作業を継続し、12 月に「立教大学図書館 VR プロジェクト」として、インターネット上に公開した(https://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/certification/librarian/project.html)。

学生たちの中にはゲームで最新のアニメーションや VR を体験している者が相当数いて、彼ら/彼女らに言わせると反応が鈍くてものたりないというのだが、まったく利益の出るはずのない予算額だったことをふまえれば、また図書館の取り組みとしては、先進的でかなりよいクオリティで仕上がっていると思われる。製作を引き受けてくださった Sugar Coat VFX Design 社の Ka Chun Cheng 氏には改めて感謝をお伝えしたい。

3　立教大学図書館との連携強化

司書課程主任が 2018 年４月に立教大学図書館長に着任したことで、図書館と司書課程の連携の可能性が図書館側から聞こえてくるようになった。図書館実習生を例年、受け入れてもらっていたが、今年度は、その実習生２名が「電子図書館入門講座：eBook で「地球の歩き方」を読んでみよう！」を企画し、12 月 13 日(木)のお昼休みに池袋図書館においてその講師を務めた。参加者は６名にとどまったが、学生が講師となるはじめての講習会として、主催者側の図書館からの評価は高かった。2019 年度に向けてはさらに、図書館内で司書課程履修生が図書館の仕事に携わる機会を提供する方向で準備中である。

以上のほか、年度末の 2019 年３月５日(火)に、兼任講師懇談会を実施した。兼任講師 13 名、本学司書課程関係者４名の合計 17 名の出席を得て、本学司書課程の教育の課題等についての意見交換を行った。今年度は出席率が高く、特に授業方法について活発な意見交換が行われた。

授業内では、小泉世津子先生の「情報メディアの活用」で、11 月 24 日(土)、12 月 15(土)に分かれて、NHK 放送センターのスタジオ見学が行われた。ハモンド特任教授の「図書館情報資源特論」では、5 月 11 日(金)に国立国会図書館、6 月 1 日(金)に国立公文書館、6 月 23 日(土)に大宅壮一文庫を訪れた。

また、昨年度からの継続で次の二つに取り組んだ。司書課程主任は８月 19 日(日)～22日(水)に聖公會曾肇添中學(S.K.H. Tsang Shiu Tim Secondary School)のスタディツアーおよび高知工業高等専門学校との合同プロジェクトをアレンジし同行した。また、司書課程専任教員２名で、陸前高田市を訪問し、教育委員会や市立図書館、グローバルキャンパス等を訪問。次年度以降の香港聖公會明華神學院(HKSKH Ming Hua Theological College)

を含めた共同プロジェクトの可能性について協議を行った。

（文責・中村百合子）